2021 年 4 月 1 日

松戸国際学院
千葉県松戸市日暮 1-1-6 湯浅ビル
TEL：047-389-0901　FAX：047-389-5241
http://www.mijpschool.com

学校自己点検・評価報告書
補足資料

出入国及び難民認定法」内の日本語教育機関の告示基準の改定により、日本語教育機関の「学校評価」が義務化されたことを受け、教育の質保証・向上に資するという観点から本校も「学校自己点検・自己評価報告書」を作成した。

日本語教育振興協会の「日本語学校における学校評価ガイドライン」を参考に、学内に設けた委員会で議論・考察を重ねた結果、以上の通り自己点検・自己評価報告書を作成した。

また、本校では更なる基準を設け、授業者と学習者それぞれの立場から相互評価する仕組みを作り、学校運営に積極的に取り入れる等の工夫をこらしている。

私たち日本語教育に求められているニーズは常に変化しており、時代の流れにあった質の高いコンテンツを受け手が満足いく形で提供しなければならない。本校の学校運営に関わる全ての職員が共有しているミッションであり、今後も柔軟に変化し続ける日本語学校でありたい。

2 教育活動の計画

①理念・教育目標に合致したコース設定をしている。

コース設定は進学コースと一般コースで学生のニーズに合ったものとなっている。

今後は特定技能ビザ取得を目標にする学生の増加に応じて、補講クラスの検討が必要になる。

②教育目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成している。

カリキュラムに関しては、卒業までの大まかな流れは決まっており、入学時のレベルチェックを起点に、在学期間で無理なく着実に能力が向上するよう編成している。クラス担任が、年度の始めに年間の学習進度スケジュールを決め、1 ヶ月単位の授業予定表を作成し、適宜調整している。

クラス間の互いの進捗状況も毎月、担当者会議を行い確認している。また、常に共有クラウドで各クラスの進捗状況を把握することができる。

③国内、又は国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしてレベル設定をしている。（JLPT 基準）

JLPT を参考にレベル設定をしており、学校内でも JLPT の模擬試験を実施し、到達度の指標としている。

④教育目標に合致した教材を選定している。

４技能をバランスよく身に着けるという教育目標に合わせ、総合教科書や足りない分野を補うことができる教材を随時取り入れている。初級では「みんなの日本語 1.2」中級からは「TRYN3」「TRYN2」「日本語総まとめ」シリーズ、漢字については「１日１５分の漢字練習」シリーズ全４冊を使用している。

④教育目標に合致した教材を選定している。

４技能をバランスよく身に着けるという教育目標に合わせ、総合教科書や足りない分野を補うことができる教材を随時取り入れている。初級では「みんなの日本語 1.2」中級からは「TRYN3」「TRYN2」「日本語総まとめ」シリーズ、漢字については「１日１５分の漢字練習」シリーズ全４冊を使用している。

3 教育活動の実地

①授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている

入学時、プレースメントテスト（筆記・口頭）により、クラス分け（初級1/初級 2/中級）を実施している。ただし、各入学期の入学者数が20名程度の場合、1クラスのみ立ち上げ、レベルが合わない学生がいれば、既存クラスか、特別補講でフォローする。

②教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している。

学期開始前に担任から同クラスを担当する教師へ必要な情報を伝達している。母国での日本語学習状況や、プレメン結果等は学校の共有クラウドで保管しており、必要な情報をいつでも閲覧できるようになっている。

③開示されたシラバスによって授業を行っている。

授業内容、担当教員、進度、試験の告知、結果等の開示はもちろんのこと、
成績評価方法・基準についても学期開始時に学生に公表し、目的意識を持つようにしている。

④授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録している。

授業記録（日報）は社内連絡ツールで記録している。出席簿は紙で記録した後、専用システムに日々入力する。

⑤理解度・到達度の確認を実施期間中に適切に行っている。

使用教材のまとまりごとに、到達度テストを実施し、結果はデータで保存する。校内に掲示し発表も行う。
成績優秀者は表彰している。

⑥学生の自己評価を把握している。

6か月に1度の個人面談でクラス担任が自己評価を聞き、面談記録を残している。ただし、自己評価の感覚は個人差があるので過大評価、過小評価など教師側の評価と一致しないこともある。

⑦個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援を行っている

クラス担任が責任をもって行い教務主任がサポートをする。

⑧特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けている。

「特定の支援」の定義が分からないが、たとえば学習障害者がいたとしても専門家の助言は受けていない。
学生に問題がある場合、クラス担任→教務主任→副校長→事業部長　という順で報告、相談が行く。

4 成績判定と授業評価

①判定基準及び判定方法が明確に定められ、適切に行われている。また判定基準と方法を開示している。

判定基準は明確に定めていなかったが明文化した。 担任が一緒に組んでいる教師と常に連携し、日々学生の出来具合を確認しているので偏った判定にはなっていないので適切といえる。今まで開示を求められたことがなかったので特にしていない。

②成績判定結果を的確に学生に伝えている。

６か月に１度（９月末と３月末）に総合成績表を面談時に配付している。

③判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。

２年次の進学先への成績表提出時にはクラスによって評価にばらつきが出ないよう、担任間で協議している。

④授業評価を定期的に実施している。

現時点では主任からの評価は行っていない。いつ・どのように行うか、検討し、実施する必要がある。

⑤評価態勢、評価方法及び評価基準が適切である。

態勢、方法に関しては非常勤教師からの評価を担任常勤教師がとりまとめ、成績表を作成している。
評価基準も5段階で絶対評価をし、適切である。

⑥学生による授業評価を定期的に実施している。

過去に実施した際は、学生からの評価が好き嫌いによる主観的な評価であったり、正当な評価か疑問に思うこともあり、毎回　授業評価の内容を見直すようにしている。評価項目を客観的な評価が出せる質問事項した。

⑦授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組みに反映されている。

定期的な授業評価を実施している。
授業内容の改善、教員の教育能力向上の取り組みとして、勉強会や研修会を不定期ではあるが開催している。

成績表のつけ方について

本校の成績表は年 2 回作成、9 月末と 3 月末の面談時、学生本人へ配付する。
成績表中段にはレベルに応じた共通テストの結果と、各分野への評価を記載する。
「文法」、「読解」、「会話」、「聴解」、「漢字」の 5 分野を 5 段階（1～5）で評価する。
評価は絶対評価で行う。必要に応じて（進学先提出の際など）相対評価を加味する場合もある。

5段階評価の根拠として、各分野を 4 つの観点から評価する。各観点の評価は ABC で評価する。
ただし、成績表にはスペースの都合上、観点は記載せず、5段階評価のみ記載する。

1. **関心・意欲・態度** （授業中の発言、話を聞く姿勢、活動への貢献度など）
2. **思考・判断** （自主性を持ち、自分で考え、説明できる）
3. **技能** （学んだことを活用・アウトプットする能力、課題への取り組み内容など）
4. **知識・理解**（小テストや JLPT 等の結果）

以上を A:**十分満足できる**　B:**おおむね満足できる**　C:**努力を要する** で評価し、その結果から5段階評価を行う。

例）AAAA　、AAAB→　5
AAAC、AABB→　4
ABBB、BBBB、BBBC→3
BBCC、ACCC→2
BCCC、CCCC→1

「総合評価」については学校関係者以外でもレベルを把握しやすい JLPT のレベルに照らし合わせて

評価する。

また、担任のみの判断で評価が偏らないように、一緒にクラスを担当している先生方へも評価やコメントを提出してもらい、評価に反映させている。

教務主任による教員授業評価

(1)実施時期　　年 2 回（前期4－9月中）と（後期 10-3 月中）に実施する。
(2)実施方法　　主任が各教員の授業を見学し、評価する。見学の際は事前に見学日時を通知する。
(3)チェック項目

1：教員は担当しているクラスの目標を理解している。	
2：担任から指示されたその日の授業予定を把握していた。	
3：授業は目的達成のため計画的に進められていた。	
4：口頭による指示、説明はわかりやすかった。	
5：板書は見やすく、誤字脱字がなく、効果的だった。	
6：視聴覚資料(絵カード、パワーポイント、ビデオなど)を効果的に使っていた。	
7：学生が気軽に質問や相談できる雰囲気作りができていた。	
8：学生のモチベーションが向上するよう前向きな声がけをしている。	
9：授業の進むスピードは問題なかった。	
10：学生の反応を確かめながら授業を進めていた。	
11：クラス全体に偏りなく発話の機会を与えていた。	
12：学生に適切なアドバイスを与え、質問にも適切に答えていた。	
13：授業に対する熱意がある	
14：学生が受け身にならず主体的に活動する機会を与えていた。	
15：きちんと準備をして授業に臨んでいた。	
16：一緒に組んでいる担任や教員とのコミュニケーションに問題がない。	
17：日報の入力や出席の管理をきちんと行っている。	
18：担当しているクラス運営や学生管理に協力的である。	

授業改善のための学生による授業評価

本校の成績表は年 2 回作成、9 月末と 3 月末の面談時、学生本人へ配付する。
成績表中段にはレベルに応じた共通テストの結果と、各分野への評価を記載する。
「文法」、「読解」、「会話」、「聴解」、「漢字」の 5 分野を 5 段階（1～5）で評価する。
評価は絶対評価で行う。必要に応じて（進学先提出の際など）相対評価を加味する場合もある。

⑴実施時期　　毎学期末に実施する。
⑵実施方法　　周知から締め切りまで2週間
　　オンラインアンケートを作成し、各クラス内に掲示
　　多言語の翻訳をつけ、来日後間もない学生も回答できるよう配慮する。
　　最後にコメント欄を設け、母国語での回答も可とした。

⑶評価項目

設問 1：担任の先生は、授業の目標や計画及び評価方法を学生に示していた。

設問 2：あなたはこの授業の目標を把握できていた。

設問 3：授業は目的達成のため計画的に進められていた。

設問 4：授業を担当した先生たちの教え方はわかりやすかった。

設問 5：あなたはわからないことがある時、気軽に先生へ質問や相談ができた。

設問 6：あなたは、授業目標を達成することができた。

設問 7：あなたは、この授業によって勉強する気持ちがもっと強くなった。

設問 8：総合的にみて，この授業はあなたにとって満足できるものであった。

設問 9：映像視覚教材(パワーポイント、ビデオなど)や板書が授業の理解に効果的だった。

設問 10：授業の進むスピードは問題なかった。

設問 11：先生は受講生の反応を確かめながら授業を進めていた。

設問 12：先生たちは効果的に学生に話す機会を与えてくれた。

設問 13：先生たちは学生に適切なアドバイスを与え、質問にも適切に答えてくれた。

設問 14:先生たちの授業に対する熱意を感じた。

設問 15:先生たちは、学生が自主的な学習をするよう教えていた。

設問 16:自分はこの授業の予習・復習を行った。

設問 17:自分はこの授業に意欲的に取り組んだ。

設問 18:クラスの人数はちょうどよかった。

設問 19:クラスの学生の国籍のバランスはちょうどよかった。

設問 20:教室の環境に満足できた。

設問 21:フリースペース、コメント欄を設ける

評価は 5 段階

評価 5:そう思う, 評価 4:ある程度そう思う, 評価 3:どちらともいえない, 評価 2:あまりそう思わない,

評価 1:そう思わない

以上